
逃走した虫のような僕。

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逃走した虫のよつな僕。

【Zコード】

N1420A

【作者名】

一柳 紘哉

【あらすじ】

僕の人生は、普通を切実に望んでいたんだ。だってそうだろう？
普通じゃない人生にどれほどの価値があるのさ。そんな人生になるはずだったのに、いつから狂いだしたんだろう。そんな僕の最後のお話。

父の怒号が響き渡る。明日は僕の誕生日。

テーブルの「コーヒー」がこぼれ、滴る。一日早いプレゼント。

「いい加減にしろ。いくらお前が意味の無い反抗したところでなにも変わらないんだ。」

意味はあるのだ。それが僕にはうまく言葉にできないだけで。
だから僕はそんな桎梏から逃げ出した。

玄関を抜け、夜の街に逃げ出す。まるで虫のようにカサカサと糸を吐いて。

粘液を出して。

殺虫剤から逃げるようにアスファルトを走る。走る。
ネオンの安っぽいキラメキがフラッシュ映像のように僕を取り巻く。
大きなプラカードを首から下げる男が僕を見つけてまた怒鳴つてく
る。

「おじ学生さん。急いでどこ行くの? ちょうどかわいい子はいった
んだけじょひつてかない?」

五月蠅い。

僕は走った。もう何もかもから逃げ出したかった。

市営の住宅を横目に、走り続けていたら。全身真っ黒なスーツを着た大男に襟をつかまれ、地面に叩きつけられた。

「君だね?」

僕の名前で間違いは無かつた。けど今の僕は地面に叩きつけられた衝撃と、ずっと走り続けていた疲れで。ヒュー・ヒューと荒く息をする事しかできない。こんな暴力に対する不満を議論する力は、今の僕には無いのだ。

男は僕を、ありえない力で拘束した。そして僕の目の前に警察手帳を出された。

「すまないけど、話してる時間はもう無いんだ。わかるだろ？警察も乐じやないんだと。今日中に終わらさないと、上の人间が五月蠅いんだよ。」

そう言い終わるか終わらないかのうちに。僕の口にガムテープをはつた。僕の体をロープで縛つた。

又一人、市営住宅から男が出てきた。

神父の格好をした男は、僕は仏教徒なのに聖書を読み出した。

男は僕の目の前に、紙を出した。えらく立派な装飾がしてあつたけど、所詮は紙だ。

内容はわかっている。

聖書を読み終わった男は、十字を切った。

男は、拳銃の安全装置をはずす。

又一人、人が市営住宅が出てきた。

あれは誰なんだろう。知り合いなのか？友達なのか？もしかして僕のことを冷たく振ったあいつなのか？

えらく乾いた音が聞こえたかと思うと、生暖かい液体が僕の頭から飛びたつた。

ここにいる人。四人ともが、ばかげた映画のようだと思ったに違いない。

少なくとも僕はそう思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1420a/>

逃走した虫のような僕。

2010年10月9日04時20分発行